

石クリ通信

3月号

初めての光景

看護助手

柴田 さち子

先日、セブンイレブんに買物に行った時です。レジに八十歳過ぎのおじいちゃんが家族に頼まれたのかメモを持って買物していました。余計な物まで買ってしまっただけか、精算するお金が足りなくなっていました。袋から品物を出して戻そうとしていましたが、なかなか時間がかり次に待っていた女性(二十歳位)が「おじいちゃんいくら足りないんですか?」と店員さんに聞いて千円を出し、足りない分を精算していました。「おじいちゃん、何度も来るの大変でしょう」と言い自分も精算してそのまま店を出て行きました。今どきこんな良い子がいるんだーと思いつつ、私は品物を袋に入れてあげました。おじいちゃんに何度もありがとうございますと言われましたが、私は品物を袋に入れてあげただけなのでちよつと心苦しかったです。

大雪から学んだこと

院長 石川 悟

前の晩からの雪で二月九日の朝は一面の雪景色。空気が澄み、静まりかえったクリニック周辺は、ふだんとは違った趣で目差しても強くその日のうちに雪は消えるだろうとタカをくくっていました。ついに夕方から駐車場の雪かきをせざるを得なくなり、きつと多くの皆さんも経験したことでしょう。雪は思ったよりも重く、置く場所にも困りました。

翌日は石名坂の先の「新田中内」まで、早朝五時半に出かけましたが、予想を超える大渋滞に巻き込まれ、クリニックに帰りついたのが十時。足元の悪い中いらしてくれた患者さんに、大変ご迷惑をおかけしました。

今回の大雪で学んだことがいくつもあります。通常通り配達された新聞と夕方になってしまった新聞店の違い。日曜のうちに雪かきが終わっていた医療機関と月曜になつて駐車場(患者用も職員用も)が使えなかった病院。いずれも職員とトッパの意識の差が招いた結果のようです。四輪駆動でスタッドレスタイヤをつけてあれば大丈夫と思つて走り出しても、渋滞に巻き込まれて、抜け道がないと自分の力では全くどうしようもないこと。また雪は長時間の停電のリスクも高いということです。

天気予報では大雪注意と言つていても、それほど切実に考えず、準備をしなかつた自分に反省です。



読書案内

事務局長 石川 都

今私がハマリ、何度も読み返しつつ丁寧に読んでいるのは、最相葉月の「セラピスト」である。最相葉月は、「絶対音感」「星新一」などで著名なノンフィクション作家。本書は自らカウンセリングを学んだ著者が、心の病とその治療について、河合隼雄の箱庭療法と、中井久夫の風景構成法をもとに、カウンセリングとは、セラピストとは、と根本から問ひかけた話題作である。著者は現代のカウンセリングの不透明さに疑問を投げかけつつも、「心」を扱う現代の両横綱、心理療法家の河合と精神医学者の中井との接点を探り、心の病とは何か、またそれが治るとはどういうことなのかを、膨大なインタビューと詳細な記録をもとに、ノンフィクションの大冊にまとめ上げた。

本書の一文より・「物語を紡ぐ」ということは、一次元の言葉の配列によって二次元以上の絨毯を織る能力ですからね。そこに無理もあるのです。言葉にならない部分を言葉のレベルまで無理に引き上げることですから(中井) また本書にはカール・ロジャースと茨城キリスト教学園に関する叙述もあります。石クリ文庫に入れますので、興味のある方はどうぞ読んでみて下さい。

雪かき以外、何もしていませんので

事務 森 絵里子

いつも石クリ通信を読んで頂きありがとうございます。2012年の4月から毎月発行していますが、私は今月とうとうネタ切れです(泣)。毎月20日が記事の締め切りになっていますが、その日が近付くとスタッフはソワソワし始めます。今月は申し訳ございません、お許しください。院内(青いファイル)、又は石川クリニックのホームページでこれまでの約2年分の石クリ通信をご覧いただけます。(スタッフの成長も確認して頂けるかと...)。読んで下さる皆さんに少しでも楽しんで頂けるように、これからも(は)毎月頑張ります!

祝・卒業

看護師 澤田 彰子

長男が3月に卒業式を迎えます。幼いころから体が弱く、喘息気味で夜間救急でかかったり、入院したこともありました。父親の転勤で4回も引っ越しをして転園や転校を繰り返して親友と離れ離れになり拒食症になったり・等々。学校に行きたくない時もあったらうと思えます。そんな状況でも6年間休まずに通い続けた長男にエールを送りたいと思います。

Congratulations on your graduation!!

チョコスキー(好き)

事務 久保 直子

月遅れの話題ですが、先月チョココレートの祭典☆パレンタインデーがありました。私はチョココレートが大好きなので、毎年自分用のチョコを買うのですが、今回は最後の銘酒「八海山」の原酒入り生チョコを購入。日本酒好きの私としては、チョコと日本酒がどうだろう...と思いましたが、酒粕も入っているせいか、とてもしつとりとして甘すぎず、フワフワと八海山の香りがして美味しかったです。日本酒のアテにチョコは合いませんが、チョコに日本酒を練り込むと意外と美味しい♪と新たな発見でした☆



最近おもしろこと

看護師 高山 早苗

今年2月に入つて雪が大変多く交通機関や生活に多大な影響を与えました。交通事故や雪によるけがなどニュースなどで被害も多く聞かれました。各地域の積雪量もこれまでに多く、わがマンシヨンの駐車場も多分にもれず大変な雪でした。翌日の朝からそれぞれの家で雪かきを始めたのですが、このような時、各家どうしの協力は必須です。マンシヨンの一番遠い駐車場のうちは向かい側の家が協力してある程度のスペースを作ったのですが、私たちが終わってから、他の家の人たちがその横に雪を積み上げはじめスペースが狭くなっているではありませんか。こういうことがよくテレビで見ると隣人トラブルに発展するのだからなと思えました。マンシヨンなどでは雪かきだけではなく日々の生活においてマナーやモラルは重要になってきます。毎日の生活を明るく、楽しく過ごしていくためにもマナーを大切にしたいと思えます。

ほしいも万歳!

通信・ウェブ担当 石川 香

各地方特有の習慣や、不思議な風習を集めたテレビ番組はよくありますが、先日茨城県がピックアップされていました。そこで話題の中心になったのが「かんそういも」と言われる干し芋。甘くて口に柔らかく広がる干し芋も取り上げられていました。隣の千葉県出身の芸能人が干し芋を知らなかったことには驚きましたが、東京の人には本当になじみがないようです。なんて不慣れ...箱買いするのも県民のみ。そんな中、先日(東京生まれの母には珍しく)「超!おいしい」とメモ書きが添えられてた、半透明で黄金に輝く丸干しが届きました。ああ、幸福。茨城名産のこのおいしさが日本中に広がるといいですね。